

福島県における試験操業の取組

福島県漁業協同組合連合会

平成29年5月25日



相馬双葉地区といわき地区からなる福島県の漁業

- 相馬地区：底びき網、船びき網、さし網などの沿岸漁業
- いわき地区：沿岸漁業とまき網、さんま棒受網などの沖合漁業

【相馬漁協】

- 7地区
- 新地支所(相馬郡新地町)
- 本所兼相馬原支所(相馬市尾浜)
- 松川浦支所(相馬市松子)
- 磯部支所(相馬市磯部)
- 徳島支所(相馬市徳島区)
- 旗手支所(双葉郡旗手町)
- 富原支所(双葉郡富原町)

【いわき市漁協】

- 6支所体制
- 本所兼久之浜支所(いわき市久之浜町)
- 田島支所(いわき市田島町)
- 田之内支所(いわき市田之内)
- 江名町支所(いわき市江名)
- 小浜支所(いわき市小浜町)
- 伊集原支所(いわき市伊集原町)

【小名産漁協】(いわき市小名浜)

【中之作漁協】(いわき市中之作)

【江名漁業】(いわき市江名)

【泉波網漁協】(いわき市小名浜)

相馬双葉地区

沿岸漁業が盛ん

いわき地区

沿岸漁業に加え
沖合漁業も盛ん

多彩な魚介類に恵まれる

○潮目の海の恩恵を受け、約200種にもものぼる多彩な魚介類が水揚げ

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 【魚類】 | クロダイ | ホシガレイ | アサリ |
| アイナメ | クロマダコ | ホシサメ | ウバガイ(ホッキガイ) |
| アカエイ | クロムツ | ホツケ | エンボビ |
| アカカマス | ケムシカジカ | ボラ | エイシシカゲガイ |
| アカガレイ | コブシカジカ | マアジ | エゾボラモドキ |
| アカシロ | コノシロ | マアゴ | コサマダイ |
| アカシラバ | ゴマサバ | マイワシ | シラトマキバイ |
| アカムツ | ゴマソイ | マカシキ | タイラキ |
| アコウダイ | コモンウスベ | マコレイ | チチモノボラ |
| アブラガレイ | コモンフグ | マコガレイ | ナガウバガイ |
| アブリノサメ | サクラマス | マコチ | ナガハイ |
| アブリボウス | サワロウ | マサバ | ホシガイ |
| アラスカキチジ | サメガレイ | マスノスケ | ヒメエノボラ |
| イカナゴ | サヨリ | マダマ | ホシチガイ |
| イサキ | サワラ | マダラ | マガキ |
| インギキダイ | サンマ | マツカワ | ムラサキイガイ |
| インガレイ | シイラ | マツダイ | モスソガイ |
| インカワシラウオ | ショウサイワグ | マトウダイ | ヤツシロガイ |
| インダイ | シロギス | マワグ | |
| イトヒキダラ | シログチ | マンボウ | 【イカ・タコ類】 |
| イロコアナゴ | シロサケ | ムシガレイ | アカイカ |
| ウスハル | シロメバル | ムライ | イイダコ |
| ウケグチメバル | スズキ | メイタガレイ | エンハイイカ |
| ウマヅラハギ | ソウダゴツオ | メダカ | ケンサキイカ |
| ウミナゴ | チカキントキ | メダイ | シントウイカ |
| ウルメワシ | チチウオ | メバチ | マダコ |
| エノビ(アテナメ(トンコ)) | チヂイ | ヤナギムシガレイ | ミスダコ |
| オホノチイサキ | チノメバル | ユカサゴ | ヤナギダコ |
| カガミダイ | チナガダラ | | ヤリイカ |
| カサゴ | トビウオ | 【エビ・カニ類】 | |
| カサクチイワシ | トウゴ | イセエビ | 【その他】 |
| カツオ | ナガツカ | イバツガニモドキ | オキナマコ |
| カツガシラ | サガシメイタガレイ | ガサミ | キキムシ |
| カラフトマス | ニギス | クルマエビ | ツノオシキアミ |
| カワハギ | ニシン | ケガニ | ヒトエグサ(アオリ) |
| ガンコ | ニジカシカ | サルエビ | バコウエ |
| カンチンゲンゲ | ニベ | スワイガニ | マナマコ |
| カンノバチ | スマガレイ | トウワリガニ | ワカメ |
| キアナコウ | ハバツツサ | ハバツツサ | |
| キス | ハバツツサ | ハバツツサ | |
| キチシ | ヒガシフグ | ヒガシフグ | |
| キツネメバル | ヒラメ | ヒラメ | |
| キハダ | ヒレグロ | ヒレグロ | |
| キンアナゴ | ヒメナガ | ヒメナガ | |
| キハボ | ブリ | ブリ | |
| クサウオ | ハタハタ | ハタハタ | |
| クロウシノシタ | ハモ | ハモ | |
| クロガシキ | ホウボウ | ホウボウ | |
| クロソイ | | | |



3

多彩な魚介類に恵まれる



カツオ・マグロ類
平成22年水揚金額
約17億円



ヒラメ
平成22年水揚金額
約7.5億円



**イカナゴ
(メロウド・コウナゴ)**
平成22年水揚金額
約13.7億円



シラス
平成22年水揚金額
約7億円



カレイ類
平成22年水揚金額
約13億円



タコ類
平成22年水揚金額
約7億円

4

福島県漁業の被災状況

| | 被害状況 | 被害額計 |
|-----------|--|------------------------|
| 漁船 | 県内の全漁船1,068隻のうち873隻が被害(被害額:6,022百万円) | 82,363 (百万円) |
| 漁港 | 県内の10漁港全てが被害(被害額:61,593百万円) | |
| ノリ類等の養殖施設 | ノリ類等の養殖施設・養殖中のものが被害(被害額:833百万円) | |
| 共同利用施設 | 産地市場をはじめ、漁業関係施設233件が被害(被害額:13,915百万円) | |
| 水産加工施設 | 浜通りにあった水産加工施設が被害(全壊77、半壊16、浸水12)(被害額:6,819百万円) | |

※水産加工施設には共同利用施設に係るものも含まれるため被害額計には計上していない。

表:水産庁「平成23年度 水産白書」より作成
http://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/h23/pdf/03_dai1sho_u.pdf



水産関連施設等の復旧状況



東京電力福島第一原子力発電所の事故による影響

- ◆ 平成29年5月1日現在、**11種**の海産魚介類に国から出荷制限指示

1. ウスメバル 2. ウミタナゴ 3. キツネメバル 4. クロダイ
5. サクラマス 6. シロメバル 7. スズキ 8. ヌマガレイ
9. ムラソイ 10. ビノスガイ 11. カサゴ

- ◆ 事故直後から福島県の沿岸漁業は操業自粛（沖合漁業（まき網、サンマ等）は通常操業）

試験操業の取組

- 県が行った**約4万3千件**（H29.3）のモニタリングによって、放射能の影響が明らかに。



- ◆ **魚種を限定し、小規模な操業と販売を試験的に実施**
平成24年6月から開始

【 目的 】

- ✦ 出荷先での評価を調査
- ✦ 流通することで、福島の水産物の安全性をアピール



「試験操業」における意思決定の流れ

県が行う緊急時モニタリング検査で
対象種(候補)の安全性を確認

試験操業の計画は、
多くの段階を経て慎重に協議され、決定されます。

① 漁業者・流通業者の協議

対象種、操業、流通体制

② 地区試験操業検討委員会

各地域の合意形成

③ 福島県地域漁業復興協議会

漁業者代表、消費・流通代表、有識者、行政機関により協議する

④ 県下漁業協同組合長会議

計画を最終決定する



9

漁協の自主検査

安心して食べていただくために、水揚げ日毎に各市場で自主検査を実施



相馬といわきの各市場に
検査機器を設置
(相馬8台、いわき9台)



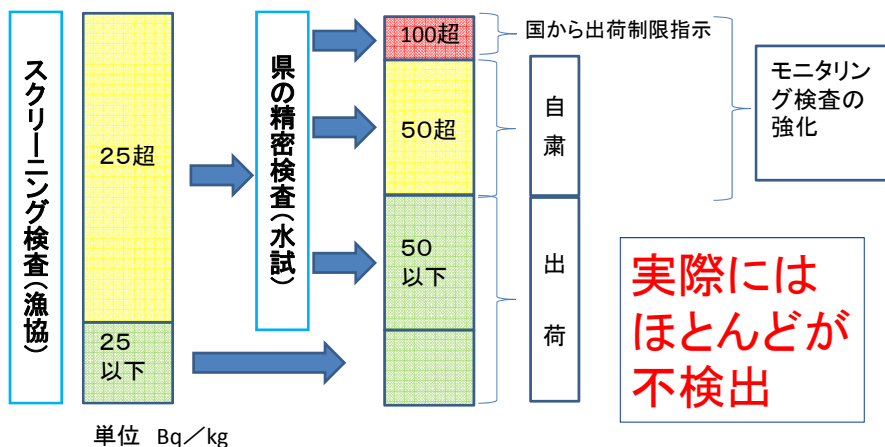
- ◆ 研修を受けた漁協職員が検査
- ◆ 各検査室において、7～10名程度で検査

- 福島県漁連では、自主基準を50Bq/kgに設定
- 市場の検査で半分の25Bq/kgを超えた場合には、水産試験場の検査機器で精密検査を行う

実際には、ほとんどが不検出(25Bq/kg超は6例のみ)

出荷方針とスクリーニング検査体制

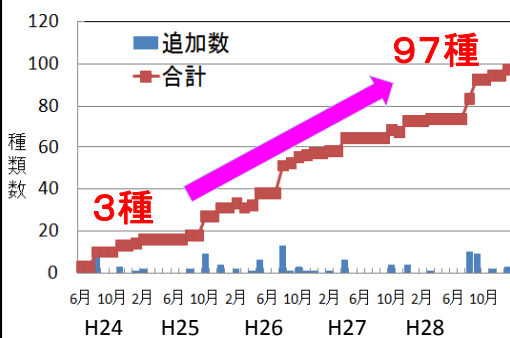
県漁連の出荷方針では、**50Bq/kgを自主基準**としています。
 これは、間違っても**100Bq/kg(国の基準値)**を超える魚介類を出荷しないためです。



11

試験操業の対象種

当初**3種**から開始、平成29年3月末現在**97種**まで増加



試験操業対象種の拡大経過

魚類 71種

アオメエソ、キアンコウ、コウナゴ、ヒラメ、マアナゴ、マコガレイ、マガレイ、マコガレイなど

甲殻類 8種

ケガニ、ズワイガニ、ヒラツメガニなど

イカ・タコ類 7種

スルメイカ、ヤリイカ、マダコ、ミズダコなど

貝類 9種

アサリ、アワビ、シライトマキバイ(ツブ)、ホッキガイなど

その他 2種

オキナマコ、キタムラサキウニ



12

対象種の考え方の変更

平成29年3月に福島県漁連の出荷方針を改定

これまでは追加方式

対象種を追加し97種まで拡大

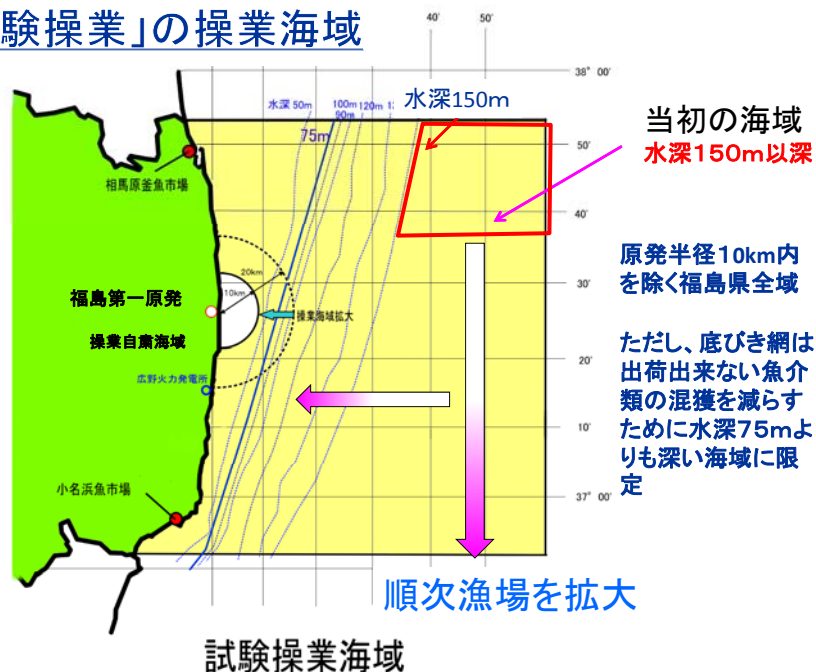


出荷制限魚種を除く全てを対象

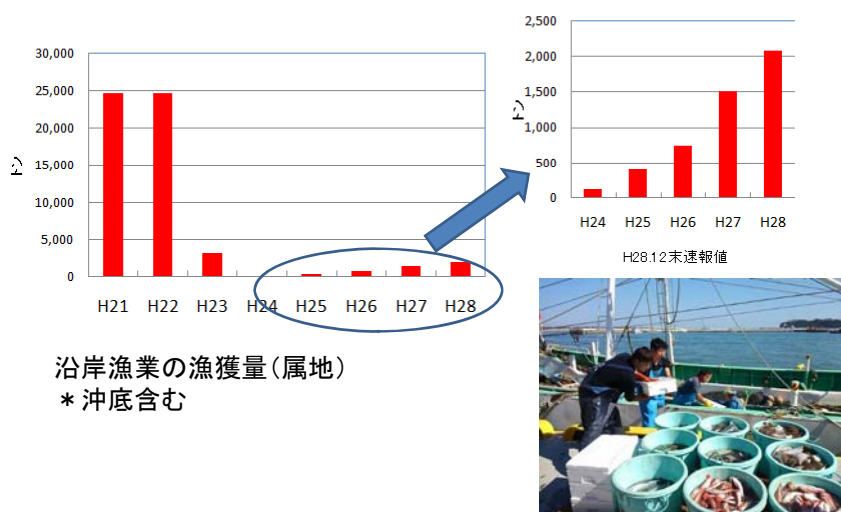
事故前のように、販売状況をみながら対象種を選ぶことが可能に

*ただし、モニタリング検査を行っていない魚種は、県のモニタリング検査を行ってから出荷対象にします。

「試験操業」の操業海域



沿岸漁業の漁獲量



試験操業の漁獲量は着実に増加しているが、平成28年の漁獲量は、震災前10年平均の8%とまだ低い水準

販売(出荷)状況

- 当初、県内のみの出荷
- 東京都(築地)や宮城県(仙台)など20都府県の消費地市場へ拡大。



いわき中央卸売市場



地元スーパー

消費地市場価格は概ね他県産と同等で取引

本格操業に向けた課題

(1) 漁獲量の拡大

震災前の8%しかない漁獲量の拡大。
操業日数の増加、曳網回数等の増加

(2) 流通体制の再構築

震災前の販売体制へ

- ・作業の役割（生産者、漁協、仲買）
- ・販売方法（競り、入札）
- ・買人の業者数

(3) 風評対策

現在は明確な風評はないが、今後数量
が増えた時に売れ残りなどが懸念

- ・安全性
- ・検査体制
- ・美味しさ などをPR

風評対策の一例

漁協や県では、消費者の皆さんに魚を安心して
食べて頂くために、安全性や美味しさを知って
もらう取組を行っています。



各種イベントでのPR活動



メディアを対象としたツアー



魚祭り(小名浜)



各省庁食堂に食材提供